

龍谷大学の国語

●2024(2025入試)年度は、「2教科型公募推薦入学試験」、「一般選抜入試前期日程・中期日程・後期日程」とも文系型・理系型の受験型に関係なく、試験日ごとに同一の問題を使用しました。ただし、理系型では農学部の出願者のみが選択解答できました。また、経営学部・短期大学部こども教育学科の「専門高校、専門学科・総合学科対象推薦入学試験」は、同一試験日の問題を古文を除いて使用しました。

1 これが傾向

2024(2025入試)年度の国語の問題は、例年と同じく、各試験日とも、

- (一)〔二〕現代文
- (三)古文

という構成になっています。設問数は漢字問題4問を含め、合計28問です。解答方法は全問マーク式で、それぞれ4つの選択肢の中から正答を1つ選びます。

(一)〔二〕の現代文の問題では、日本文化、言語、身体、宗教、科学、教育、文学など、さまざまなテーマにかんする文章を幅広く取り上げています。いずれも、「入試という枠組みを超えて、自分たちをとりまく現代の問題について、深く読み考えるきっかけにしてほしい」という願いを込めて、素材文を選択しています。

設問は、語句の意味、指示語の内容、あるいは接続語や語句の

補充といった基本的なものから、筆者の考えや文章全体の趣旨・主題を問うものまであり、多角的に思考力を測れるように工夫しています。

(三)の古文の問題も、さまざまなジャンルや時代の作品を取り上げており、読解の助けになるように、必要に応じて注もつけています。設問としては、古語の意味や文の解釈・現代語訳、文法的事項、文学史の知識のほか、作中人物の心情や文章の趣旨などを問うものがあります。いずれもオーソドックスなものですから、基礎的な学力を身につけて、内容を正しく把握できるように練習しておけば、解答可能なレベルだと言えます。

現代文・古文ともに、文章の一字一句を丁寧に読み、文意を正確に捉えることがもっとも大事なポイントです。

2 出題内容の概要

試験日・日程	問題番号	配点率	種類	出典	内容
11月23日実施分 2教科型公募推薦	(一)	(40%)	現代文 評論	四方田犬彦 『サレ・エ・ペベ 塩と胡椒』	「日本料理」とは外部からの視線によって成り立つ虚構の概念である。筆者にとって実在するのは、子どもの頃から親しんできたもっとローカルな料理だ。しかし、そうした料理は「日本料理」という大きなイデオロギーに吸収されて消えつつある。 ----- 漢字の知識、内容理解、空所補充、趣旨把握
	(二)	(30%)	現代文 随筆	今野真二 『日本語と漢字—正書法がないことばの歴史』	『万葉集』においては漢字によって日本語を文字化している。具体的な日本語にもどすことはできなくても内容はわかるのは、漢字が表語文字だからである。日本語を表記する際に「すれ」が生じることがあるが、仮名はその「すれ」を調整するために生まれた。 ----- ◇箇所説明、内容理解、空所補充、趣旨把握
	(三)	(30%)	古文	『古本説話集』	昔、田舎の金持ちの娘がいた。両親が亡くなり、観音様への信仰だけが彼女の支えであった。ある時、不思議な夢を見て、まもなく頼りになりそうな男性から求婚された。そして、あれこれと尽くしてくれる侍女も現れた。その侍女は観音の化身であった。 ----- 指示部解釈、作中人物の把握、文法、内容理解、文学史
11月24日実施分 2教科型公募推薦	(一)	(40%)	現代文 評論	武田信明 『個室』と「まなざし」	B・アンダーソンのいう「想像の共同体」としての「日本」は、全国に敷設されていく鉄道の線路や、各地を短時間で結んで空間を「抹殺」(W・シヴェルプシュ)する鉄道の速度によって、明治期の人々に漸進的に定着していった。 ----- 内容理解、箇所説明、空所補充、主旨説明
	(二)	(30%)	現代文 随筆	古田徹也 『謝罪論』	事件や事故の被害者が自発的に心から加害者を赦し、怒りや憎しみから解放されることは容易なことではない。その一方で、正義の感覚に基づいて公共的なレベルで行われる刑罰(処罰)は、報復の連鎖を断ち切る可能性がある。 ----- 空所補充、内容理解、主旨把握
	(三)	(30%)	古文	『うつほ物語』	異国の地で琴の秘技を習得した父(清原俊蔭)は、日本に戻り娘に琴を教えた。娘は父に勝る技術を身につけた。父は亡くなる時に娘に屋敷の隅に埋めてある2つの琴の話を話す。父が亡くなると家は壊され荘園からの物資もなくなり、娘は困窮した。 ----- 内容理解、文法、指示部解釈、文学史
1月29日実施分 一般選抜入試 前期日程	(一)	(40%)	現代文 評論	吉見俊哉 『博覧会の政治学 まなざしの近代』	ロンドン万博の会場となった水晶宮には時代の先端を担う産業機械が展示され脚光を浴びた。同時に、多様な商品の氾濫する水晶宮は使用価値を超えた世界の姿を人々に呈示し、見物人が比較、選別の対象として展示品を眺める視覚の特権的な場でもあった。 ----- 漢字の知識、空所補充、内容理解、趣旨把握
	(二)	(30%)	現代文 随筆	石井美保 『めぐりながれるもの の人類学』	これまでの人類学は、自分たちとは異なる社会の習慣や信仰をいかに理解するかを議論してきたが、個人の身体感覚に基づくアクチュアリティを通して、基礎的な現実世界を捉え直す必要があることを、筆者自身の経験に基づいて考察した文章。 ----- 内容理解、空所補充、主旨把握
	(三)	(30%)	古文	『浜松中納言物語』	二位の中納言は河陽殿の後に再び会いたいと思い、菩提寺に参詣したところ、夢の中に僧が現れ、その願いが叶うと言った。その頃、后は陰陽師の言葉に従い密かに山陰という所に移った。二位の中納言は偶然山陰に行き、そこで后と出会うこととなった。 ----- 和歌解釈、内容理解、主語の判定、文法、文学史
1月30日実施分 一般選抜入試 前期日程	(一)	(40%)	現代文 評論	岡野八代 『ケアの倫理—フェミニズムの政治思想』	筆者は本文で、主にアメリカのフェミニストであるフェデリチの考察に基づき、一六世紀以降の西洋社会で苛烈になる女性差別・女性弾圧の歴史を論じている。それは女性を家庭内に封じこめ、さらに労働や再生産に関する主体性を剥奪する歴史である。 ----- 漢字の知識、空所補充、内容理解、主旨把握
	(二)	(30%)	現代文 随筆	村上靖彦 『客観性の落とし穴』	個人が持つ経験の時空間は、科学が分析の対象とするような、客観的の狭がりを持つ時空間とは違っている。著者はその違いを「偶然との遭遇」という切り口から考察する。また偶然に自己の生の固有性が見られるという視点を提示している。 ----- 内容理解、空所補充、主旨把握、語句解釈
	(三)	(30%)	古文	紫式部 『源氏物語』	光君(光源氏)は須磨で不自由な暮らしを送っている。明石の入道は光君と娘(のちの明石の上)を結婚させようとする。娘は自分の将来についてやや悲観している。光君が都にいたころを懐かしんでいると、友人の三位中将が訪れ、再会を喜び。 ----- 文法、現代語訳、内容理解、語句解釈、空所補充、文学史

試験日・日程	問題番号	配点率	種類	出典	内容
1月31日実施分 一般選抜入試 前期日程	(一)	(40%)	現代文 評論	中村雄二郎 『感性の覚醒 近代情 念論の再検討を通じ て』	感情は不確かで曖昧なものと思われているが実は秩序とまとまりがあり、個人的であるよりもむしろ集団的なものである。感情を理解するには、個人と集団の両面からの考察が必要であり、共同感情は共同社会(国家)の持続性や文化形成に重要な役割を果たす。 ◇漢字の知識、箇所説明、内容理解、空所補充、主旨把握
	(二)	(30%)	現代文 随筆	多田智満子 『世界の鏡』	ルネサンス期、絵画は世界の外観をリアルに正確に捉えようとする「世界の鏡」であったが、画面の中に凸面鏡が持ちこまれるに至って画面における空間再構成の快楽が画家たちにもたらされ、画を「見る者」と「見えるもの」との関係にも変化が生じた。 内容理解、空所補充、箇所説明、主旨把握
	(三)	(30%)	古文	後深草院二条 『とはすがたり』	旅先の鎌倉の風景は、作者にとって魅力的なものではなかった。小町殿という縁の女性と手紙のやりとりをするようになったが、病気で寝込んでしまった。鶴岡八幡宮の放生会に出かけてみたが、將軍一行のあり様が卑しげに見えるだけだった。 文法、語句解釈、指示部解釈、内容理解、文学史
2月14日実施分 一般選抜入試 中期日程	(一)	(40%)	現代文 評論	阿部公彦 『事務に踊る人々』	現代社会では、事務的な枠組みが支配的である。事務処理的な手続きへの共通した配慮や注意が、人々を結びつける。しかし他方でそれは、「こちらあみ子」の主人公が物語るように、そうした「注意の規範」を理解できない者たちの排除を促しかねない。 漢字の知識、空所補充、内容理解、主旨把握
	(二)	(30%)	現代文 随筆	まど・みちお 『遠近法の詩』	筆者は幼年の頃に、薬品箱に描かれた鍾馗が薬品箱を持っているのを見て、無限に列なる遠近法に衝撃を受けた。こうした「遠近法の詩」に痺れるような感覚こそが、人類の歴史の中で蓄積され、芸術活動の源となったと、筆者は考えている。 内容理解、空所補充、主旨把握、語句解釈
	(三)	(30%)	古文	慈円 『愚管抄』	藤原頼長は、怒りっぽく万事に極端な人物であった。しかし父の殿は、頼長の冗法性寺殿の反対にもかかわらず、彼を内覧の地位に就けた。また頼長は、ほかの貴族に乱暴を働か、世の人々は彼に「悪左府」というあだ名をつけた。 主語の判別、文法、指示部解釈、内容理解、文学史
2月15日実施分 一般選抜入試 中期日程	(一)	(40%)	現代文 評論	住吉雅美 『ルールはそもそも なんのためにあるのか』	刑罰は犯罪の被害者が自ら行う復讐ではなく、公権に基づく裁判官の裁きによって行われる。復讐は個人的な恨みに基づくため、それを行うと新たな復讐を引き起こしうる。刑罰は、その復讐の連鎖をくい止めるという役割を果たしている。 漢字の知識、空所補充、内容理解、指示部解釈
	(二)	(30%)	現代文 随筆	高島玲 『ゆるい含意で、がん がん拡大——身を委ね てはいけない諸々につ いて』	「愛」や「文化」などの概念は、漠然とした心地よさを持つがゆえに社会で幅を利かせ、個人が持つ気持や営みの差異を曖昧にしてしまう。それはやがて、批判も自浄能力もない、個人をただ静かに抑圧するぼやけた人混みを生み出すことになるだろう。 内容理解、箇所説明、空所補充、主旨把握
	(三)	(30%)	古文	『栄花物語』	寛弘7年(1010)、藤原伊周は37歳になっていたが、重病の床にあった。妻、息子、娘2人の行く末を案じるのを弟の隆家(中納言)は慰める。伊周が失意の中このような死を迎えることになったのは、自らの運命だと諦めたからだろうか。 文法、現代語訳、語句解釈、内容理解、空所補充、文学史
3月10日実施分 一般選抜入試 後期日程	(一)	(40%)	現代文 評論	Jean Lin 『帰属の美学——板前 の国籍は寿司の味を変 えるか』	真正性は、近現代においてとりわけ価値があるものとして認識されている。しかし、文化的な力テコリに即して真正性が主張された場合、様々な問題が懸念される。例えば、料理に真正性を見出す行為は、料理という文化の発展を妨げかねないのである。 漢字の知識、内容理解、空所補充、主旨把握
	(二)	(30%)	現代文 小説	関口尚 『芭蕉はがまんできな い おくのほそ道随 行記』	己の理想とする俳諧を追求しようと奥州への旅に出た芭蕉を、その弟子であり旅の随行者でもある「わたし」(河合曾良)の視点から描く。旅の中で起こった出来事をきっかけに、「わたし」は「蛙飛びこむ」の句の解釈を通して俳諧と自分自身とを見つめ直す。 語句解釈、空所補充、内容理解
	(三)	(30%)	古文	『六代勝事記』	承久の乱で敗れた後鳥羽院は、鳥羽殿で出家した後、隱岐国に流される。その道中では、母のことを思い出して悲しむ。佐渡国に流された順徳院は、都を恋しがり、道中とともにした男たちが故郷に帰るのを召し寄せ、涙を流す。 指示部解釈、空所補充、文法、内容理解、文学史

3 出題の意図と対策

現代文、古文ともに標準的なレベルの問題ですから、まずはふだんの授業を大切に、反復練習によって国語の“力”を確実に身につけておくことが大切です。

そもそも、国語の“力”には、①基本的な読み書き能力(リテラシー)、②論理的な思考力と表現力、という2つの側面があるのではないのでしょうか。①は、たとえば漢字の知識や言葉の意味を把握した上で、文章を正確に読み取ったり適切に書いたりできる力のことです。文法や修辞技法、文の組み立て方なども含めて、日本語表現を構成する基本的な事項をどれほど知っており理解しているか、そしてどれくらい正しく使えるか、ということです。一方②は、ある文章について、それが表現しようとしている感情なり思想・主張などを成り立たせている枠組みや文脈を理解する力であり、それらをふまえて論理的に文章を書く力だと言えるでしょう。入試問題では、こうした“力”が問われるのです。

〔一〕〔二〕の現代文は、かなりの分量の文章をかざられた時間で読み解かねばなりませんから、構成や趣旨・主題をすばやく的確に把握する訓練が欠かせません。そのためにも、日頃からさまざまな文章に触れ、読解することが必要です。多読と速読を繰り返しながら、文章全体の大まかな流れやテーマを上手につかめるようにしておけば、内容理解や文の挿入位置など多くの設問に対応できるはずです。

空所補充や語句解釈などの問題も例年出されていますが、文脈のなかに適切な語句を埋めたり、文脈におけるある語句の意味するところを確定したりするためには、さらに一つひとつの言葉が持つ微妙なニュアンスの違いに注意しなければなりません。ここ

でもやはり、ふだんからいろいろな文章を読んでおくことが大きな支えとなるはず。ただし、これらの問題で求められているのは精読です。個々の表現に立ち止まり、一つひとつの言葉の意味を吟味し、まめに辞書を引いて確認しながらゆっくりと読み込むことです。そのようにして、語彙や慣用語、漢字の知識をひろげ、深めていくような心がけてください。なお、〔一〕の問一は漢字の知識を問う問題ですが、原則として常用漢字の枠をはずれることなく、文脈のなかで漢字の意味が正確に把握できているかどうか重点をおいた設問になっています。問われているのは、あくまでも国語の基本的な“力”なのです。

〔三〕の古文も同様です。基本語彙(重要古語)と古典文法の基礎を正確に理解し、敬語などを手がかりに文の主語・述語関係を見誤らずに読むことができれば、難解な問題文でも設問でもありません。とはいえ、古語や文法を丸暗記することが有効な対策とは言えません。むしろ、具体的に古文を読むなかで、辞書で調べ確認しながらそうした知識・学力を修得するほうが、結果的に応用力もつき、入試問題にも対応できるのではないのでしょうか。その意味で、要点は現代文と変わらないはず。ちなみに、古典文法と古典文学史について必ず最低1問ずつ出されていますが、現代文でも文法や文学史を問うことがあります。国語便覧などを参考に、基本事項を復習しておきましょう。

入試対策に王道なし。急がば回れ。成功への近道があるとすれば、それは何よりも地道に基礎学力を積み上げること、言葉への自覚的態度と知的好奇心とを養うことにちがひありません。